

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月 1日

事業所名 YCCもこもこ十三教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	71%	29%		法定人員はクリアしており。有資格者も多い。さらにスキルアップを心掛けたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	57%	43%	車いすが入るときは十分注意している。	建物の構造上難しいが検討していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		事業所内の通信に反映している。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	86%	14%	ホームページや保護者が閲覧できる場所に置き、公開している。	今後も閲覧しやすい方法で公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	86%	14%	この評価を活用している。	外部評価をしていただくように努力していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%		毎月1度の研修を実施している。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	初回面談でアセスメントしている。	標準化されたアセスメントツールを活用するように努力したい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%		毎日ミーティングで行っている。さらに精査したものにしていきたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		毎日ミーティングで行っている。さらに工夫していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		祝日、長期休暇に課題を設定している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		計画を作る際に細かくモニタリングしている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		特記事項の確認やシュミレーションを行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%		気付いた事、留意事項は共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		カンファレンス会議を随時行っている。今後も続けていきたい。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		計画の立て直し時期には全員のモニタリングを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	86%	14%			

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	86%	14%		管理者が出席しているが会議内容は職員で共有していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	86%	14%		行事予定や学校でのトラブル等は共有し、学校と話し合うこともある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%	該当なし	受け入れる場合は医療と密に連絡を取りたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	14%		相談支援事業所を通じて情報共有しているが、園との直接連絡を取っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	86%	14%		相談支援事業所を通じて情報共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	86%	14%		研修は受けている。保護者を通して専門機関の見解を聞いている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	86%	14%		コロナ感染予防のため機会がなかった。プライバシー保護のため難しい部分がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	57%	ペアトレは行っていない。	ホームページや事業所内通信で療育の書籍を紹介している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%		コロナ感染拡大のため保護者会はできていないが個人情報に留意して個別に対応していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	71%	29%		保護者からのご意見については担当窓口を契約時に伝え、苦情時は即時に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%		地域のフリーペーパー等で事業所の様子は伝えている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%		個別支援計画に必ず記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	86%	14%	医師の指示を保護者から聞き取っている。	保護者から聞き取りをして全員確認している。アレルギーがある子どもの利用の時は医師の指示書を活用していきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0		